

平成 22 年 6 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2007～2009
課題番号：19520539
研究課題名 (和文) リスニングの構成要素の特定化ならび要素間に内在する関係の解明
研究課題名 (英文) Understanding Sub-Skills of Listening Comprehension: A Preliminary Study
研究代表者
川島 浩勝 (KAWASHIMA HIROKATSU)
長崎外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：60259736

研究成果の概要 (和文)：

複雑な認知活動であるリスニングの構成要素の全体像解明に向けた研究を行った。リスニングの構成要素の候補として、1)音素識別能力、2)文法性判断能力、3)意味性判断能力、4)パーシャル・ディクテーション能力、など4つの能力を研究対象として、それらと総合的リスニング能力と関係を調べた。分析の結果、意味性判断能力及びパーシャル・ディクテーション能力がリスニングの有力な構成要素となり得る可能性が高く、また、意味性判断能力及びパーシャル・ディクテーション能力と総合的リスニング能力の間には、非線形的関係が存在している可能性がある、ことなどが明らかにされている。

研究成果の概要 (英文)：

Research was conducted in an attempt to obtain a clear map of the nature of the sub-skills of listening comprehension, a complex cognitive activity. Four types of listening ability were viewed as important sub-skills of listening comprehension: phoneme discrimination ability, grammaticality judgment ability, semanticity judgment ability, and partial dictation ability, and their relationships with general listening proficiency were investigated. The results show, for example, that semanticity judgment ability and partial dictation ability may be more related to general listening proficiency, and that relationships between semanticity judgment ability and partial dictation ability and general listening proficiency may include non-linear elements.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：リスニング・下位技能・複雑系・テストィング

1. 研究開始当初の背景

2006年度から大学入試センター試験にリスニングテストが導入されたが、教育現場におけるリスニング指導の重要性はますます認識されてきていると言えよう。

近年、研究の分野においても、リスニングに関する論文や学術書の数が増え、リスニングの本質やその指導法等に対する理解はかなり進んできている。しかしながら、それらは完全と言えるものではなく、明らかにされていないことも少なくない。例えば、指導者は学習者のリスニング能力を様々なレベル（音素識別能力やディクテーション能力など）で把握しておかなければならないが、実際のリスニング指導を見た場合、その把握状況は十分なものではなく、指導者の直感や経験に基づきことが多いようである。

このような状況の背景の一つとして、リスニングの構成要素に関する理解が十分なされていないことが挙げられるが、現段階において、リスニングの構成要素に関する研究が進んでいるとは言い難い。例えば、単語認識能力がリスニングにおける重要な構成要素の一つになり得ることを調査・分析した研究 [Takashima (1998): "Accuracy of spoken word recognition as a predictor of listening comprehension for Japanese learners of English," ARELE, 9.] 等があるが、第3の要素を介して単語認識能力の重要性が表面的に検出された可能性（疑似相関性）もあり、単語認識能力をリスニングにおける重要な構成要素と位置づけるためにはさらなる研究が必要である。また、リスニングの要素間（例えば、単語認識能力と文法性判断能力）に内在する関係については、殆ど研究されておらず、リスニングの構成要素の全体像は明らかにされていない。

リスニングの構成要素に関する理解を深めることにより、今後ますます重要になってくるリスニング指導を支援することができるのではと考え、本研究課題をスタートさせた。

2. 研究の目的

本研究課題は、A)リスニングの構成要素の特定化を行い、さらに、B)要素間に内在する関係を解明することを最終的な目標としているが、この目標達成に向け、1)音素識別能力、2)文法性判断能力、3)意味性判断能力、4)パーシャル・ディクテーション能力、をリスニングの重要構成要素と位置づけ、

それぞれの能力と総合的リスニング能力との間に見られる関係を把握することを研究期間内での主たる目標とした。

3. 研究の方法

研究期間初年度（2007年度）は、理論的な基礎研究として、上述したリスニングの構成要素候補や総合的リスニング能力のパフォーマンスの測定法を検討し、一部予備調査も行った。2008年度・2009年度は、1)音素識別能力にフォーカスを当てた調査研究と2)文理解にフォーカスを当てた調査研究を同時並行的に行った。前者に関しては、母音と子音のミニマルペアーの峻別タスクを、また、後者に関しては、エラー認識タスク (sentence-based phonetic/grammatical/semantic error identification tasks) 等を用い、実際にデータを収集し、偏相関分析や重回帰分析等の統計手法を用いながら、リスニングの構成要素に関する研究を行った。

4. 研究成果

本研究課題の遂行にあたり、リスニングの構成要素に関して様々なことがわかったが、下記は、その主要研究成果のエッセンスを、単語レベルの音素識別能力と文理解能力の観点からまとめたものである。

① 音素識別能力（単語レベル）に関連した研究成果

母音と子音のミニマルペアーの峻別タスクのパフォーマンスを集計し、データを単相関分析と偏相関分析にかけたが、その結果、1)表面的には、母音と子音のミニマルペアー峻別能力は両方とも総合的リスニング能力に深く関与しているが、2)実質的には、ミニマルペアーの峻別能力より子音のミニマルペアーの峻別能力の方が総合的リスニング能力に深く関係していることが明らかにされた。

また、ミニマルペアーの峻別タスクの回数効果に関しても調査を行ったが、峻別タスクを2回行った時の方が、総合的リスニングの得点の分散をより高い精度で説明できることが分かった。

このような調査に加え、母音と子音のミニマルペアーの峻別能力間に見られる関係を理解するための調査も行った。学習者の総合的リスニング能力を5段階に分け、それぞれの段階でどのような関係が見られるかを調

べたが、単相関分析の結果、1) 母音と子音のミニマルペアーの峻別能力の関係は一定ではなく、2) 総合的リスニング能力が高くなっても、両者の相関は高くなるとは限らない、ことなどが分かった。特に、5段階で一番高いレベルにおいて、そのような傾向があることは注目しなければならいだろう。

② 文理解能力に関連した研究成果

リスニングの構成要素として文理解能力を研究対象とし、先ず、文レベルにおける音素識別能力/文法性判断能力/意味性判断能力をエラー認識タスクを用い測定し、それぞれのパフォーマンスと総合的リスニング能力の間の関係を調べた。単相関分析・偏相関分析の結果、意味性判断能力が最も総合的リスニング能力に関係していること等が明らかにされた。

この調査と並行し、パーシャル・ディクテーション能力と総合的リスニング能力の関係も調べられたが、単相関分析の結果、両者の関係はかなり高いことが分かった。さらに、パーシャル・ディクテーションの位置(文頭、文中、文尾)と総合的リスニングの関係を調べたが、単相関分析・偏相関分析の結果、例えば、文頭、文尾より、特に、その間にある単語・語句の聞き取り能力が総合的リスニング能力に深く関与していることなどが明らかになった。

最後に、文レベルにおける4つの能力(音素識別能力/文法性判断能力/意味性判断能力/パーシャル・ディクテーション能力)と総合的リスニング能力の関係を詳しく調べた。データ分析の結果、特に、意味性判断能力とパーシャル・ディクテーション能力と総合的リスニング能力の間には非線形的関係が存在している可能性が高いことがわかった。この分析に加え、非線形データを線形データに変換し、その上で、重回帰分析を行ったが、エラー認識タスク(発音面/文法面/意味面)とパーシャル・ディクテーションで総合的リスニング力の得点の分散の50%程度を説明できることが明らかにされた。

非線形的な関係でもわかるように、リスニングの構成要素は予想以上に複雑で、本研究課題が扱っていない領域も多くある。しかしながら、上述の研究結果により、総合的リスニング能力をより詳しく分析的に見れるようになったことの意義は大きいと思われる。概して、学習者のリスニング能力は、総合的リスニングテストで測定され、スコアの合計点のみが問題にされることが多いようであるが、リスニングの体系的指導を考えた場合、合計点だけの情報では不十分で、下位技能の情報も必要である。また、同じ合計点でも、

下位技能の習得状況には様々なパターンがあると考えられ、バランスのとれたリスニング力をつけるためには、リスニングの下位技能を的確に把握しておく必要がある。この意味においても、本研究課題の研究成果は様々な示唆をもたらすものと思われる。

最後になるが、本研究課題で用いた文レベルでの音声/文法/意味エラー認識タスク等は、教室環境におけるリスニング指導で使用できることがわかったが、効果的な使用方法について研究を深めて行きたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 著者名：Kawahsima, H.
論文標題：Understanding Sentenced-Based Partial Dictation.
雑誌名等：長崎外大論叢第13号，
pp. 185-196.
発行年：2009年
- ② 著者名：Kawahsima, H.
論文標題：Understanding Sub-Skills of Listening from the Perspective of Classroom Diagnostic Assessment.
雑誌名等：Conference Book: Interface between National Tests and Classroom Assessment. The 4th Annual KELTA Conference: 2009 International Conference, pp. 102-106.
発行年：2009年

[学会発表] (計6件)

- ① 発表者名：Kawashima, H.
発表標題：Understanding Error Identification Tasks for Intensive Listening.
学会名等：VIII Annual Worldwide Forum on Education and Culture
発表場所：Trilussa Palace Hotel, Rome, Italy
発表年月日：2009年12月3日
- ② 発表者名：Kawashima, H.
発表標題：Understanding Sub-Skills of Listening from the Perspective of Classroom Diagnostic Assessment
学会名等：KELTA (Korea English Language Testing Association) 2009.
発表場所：Seoul National University, Seoul, Korea
発表年月日：2009年8月29日

- ③ 発表者名 : Kawashima, H.
発表標題 : Understanding Discriminative Perception of English Consonant Minimal Pairs from the Perspective of Two Levels of Processing: Sound and Meaning
学会名等 : Poster Presentation at TABU Dag 2009 (30th Annual Linguistic Conference)
発表場所 : University of Groningen, Holland
発表年月日 : 2009年6月12日
- ④ 発表者名 : Kawashima, H.
発表標題 : Understanding Error Identification Tasks for Intensive Listening.
学会名等 : Poster Presentation at 2009 Hawaii International Conference on Education.
発表場所 : Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Honolulu, Hawaii, USA
発表年月日 : 2009年1月4日
- ⑤ 発表者名 : Kawashima, H.
発表標題 : Understanding Developmental Relationships in Discriminative Perception between English Vowel and Consonant Minimal Pairs from the Perspective of General Listening Proficiency.
学会名等 : First International Conference on English Language Teaching and Learning.
発表場所 : Universidade de Santiago de Compostela, Santiago de Compostela, Spain
発表年月日 : 2008年9月12日
- ⑥ 発表者名 : Kawashima, H.
発表標題 : Understanding Relationships between Discriminative Perception of English Vowel and Consonant Minimal Pairs and General Listening Proficiency”
学会名等 : 第34回全国英語教育学会東京研究大会.
発表場所 : 昭和女子大学、東京
発表年月日 : 2008年8月10日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川島浩勝 (KAWASHIMA HIROKATSU)
長崎外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号 : 60259736

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし